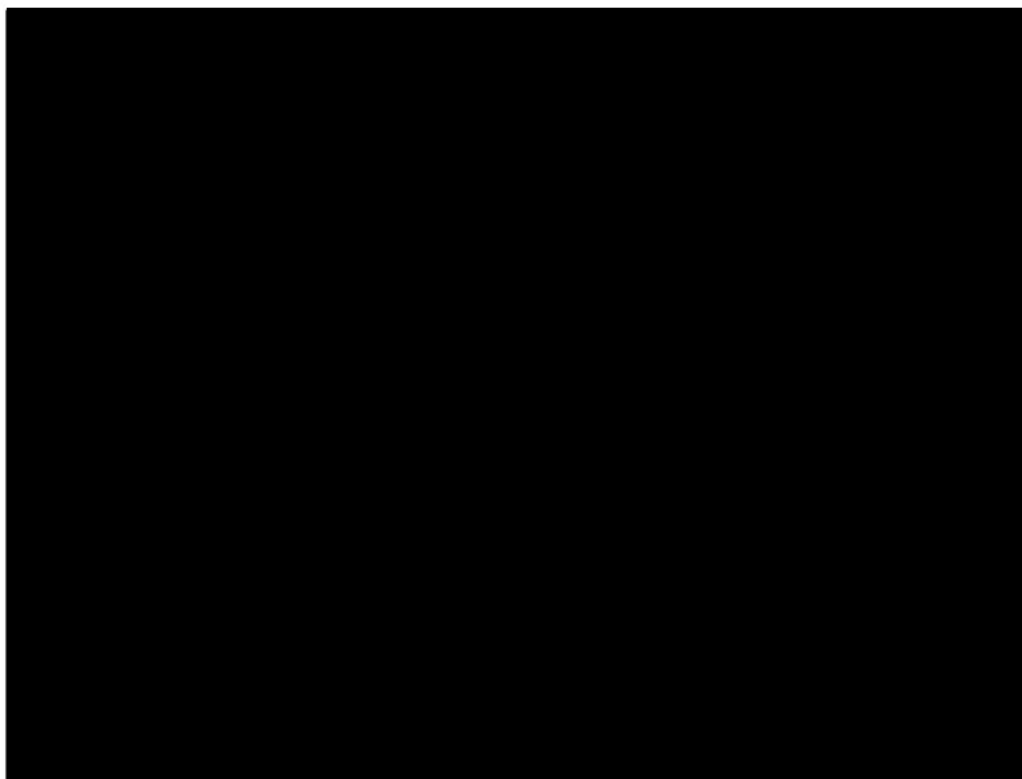
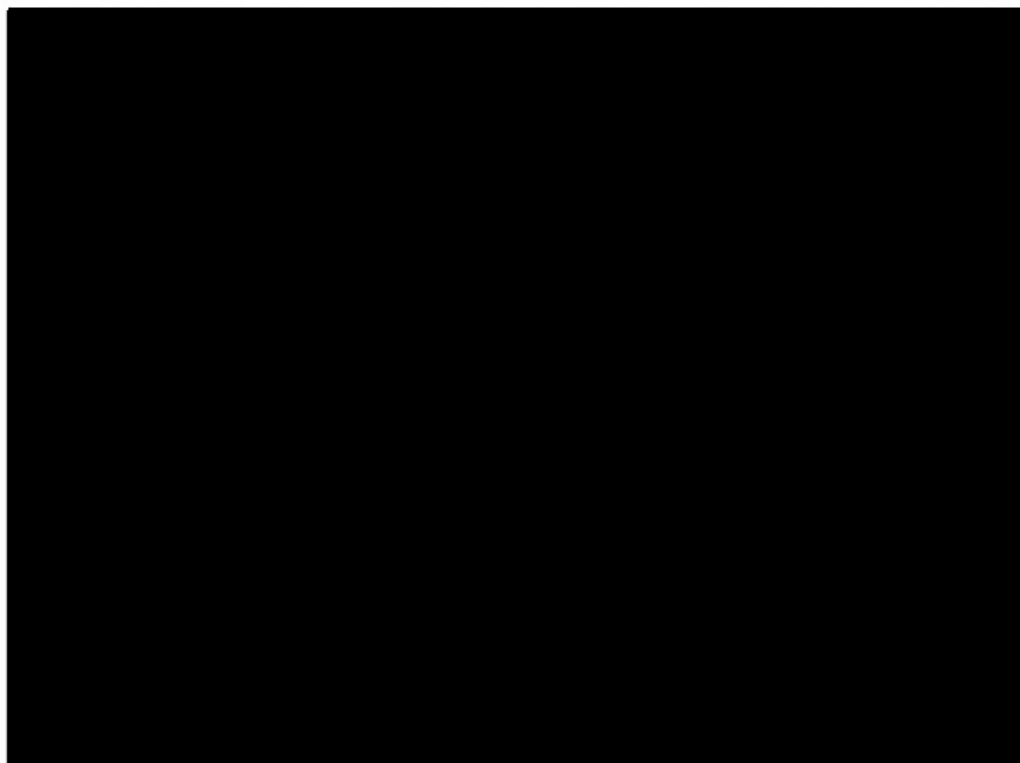




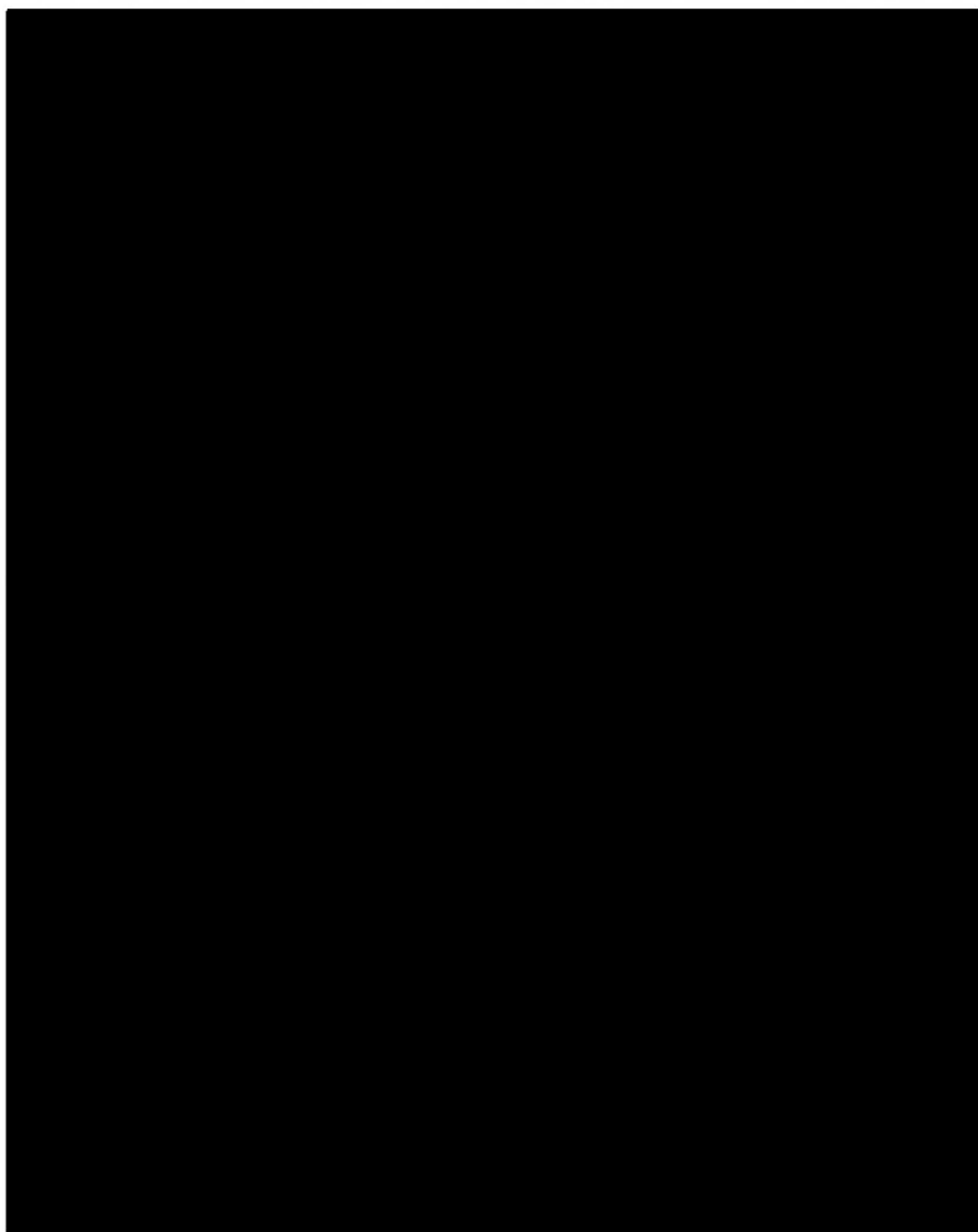
第一図 第一号鞍(鞍褥を除く)。上居木に腹帯革をかけ、鐙の力革を通す。黒色フェルト褥と下敷を白革組で貫いて下居木に縛す。上部両居木の間から壓肖の赤地獅子文緯錦が認められる。



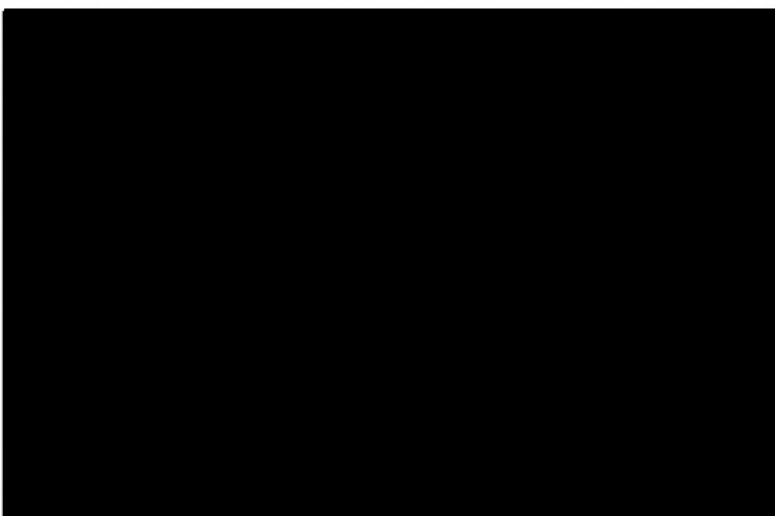
第二図 第一号鞍鞍橋。崩橋山形に銀泥雲形を描く。鞍革が後橋を貫き腹帯革に連なる。



第三図 第一号鞍鞍橋裏面。前後輪下面の洲浜型造出しと、居木先き組込みを示す。



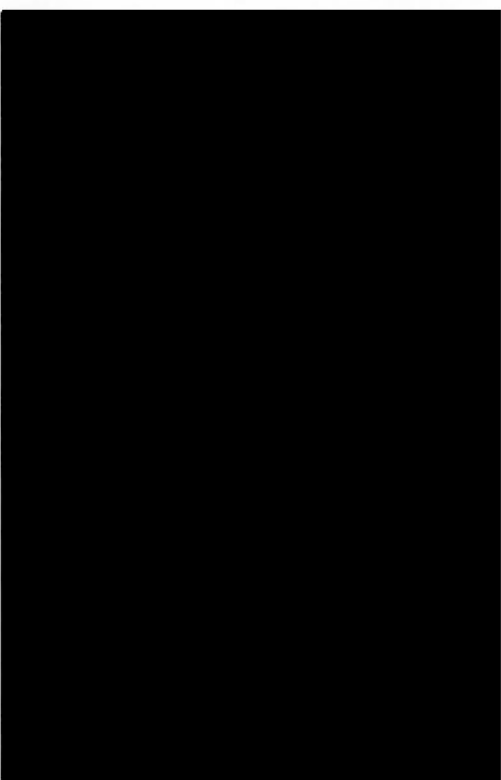
第四図 第一号鞍面懸。黒色鹿革紐に摂蝶、端金具、責め金具を附し、額革に金銅杏葉を下げる。葵梨銜（うばらぐつわ）を用い、簪と面懸鎖は兵庫鎖。手綱は丸紵白麻布。右側の余部は馬丁が口を取る。



第五図 第一号鞍尻懸止金具及び金銅合葉

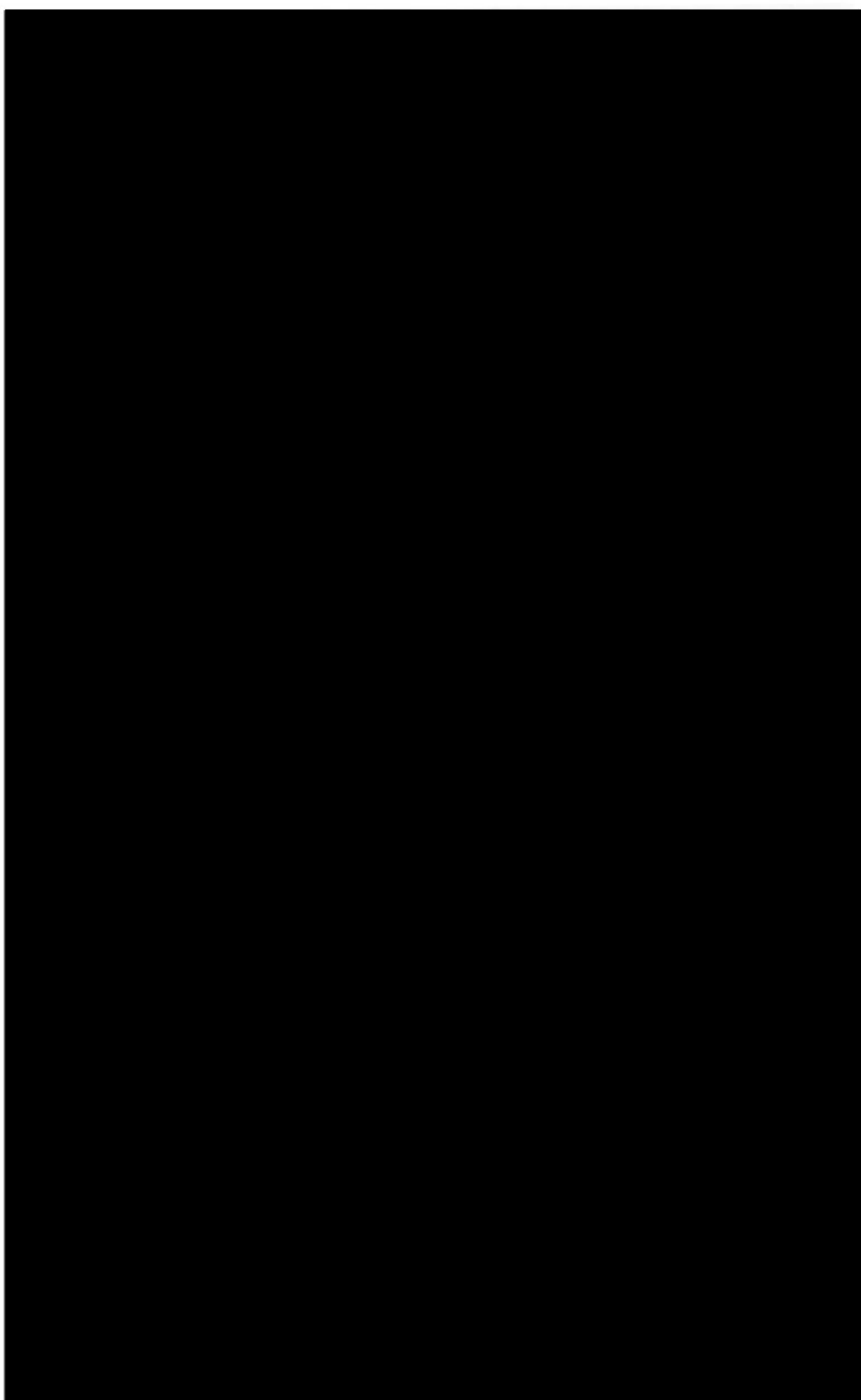


第六図



第七図

第二号鞍後橋鞍孔限製座金（拡大写真）。毛彫り菊花及び雲形瑞花文を示す。



第八図 第一号鞍壺鍔。飛禽及び唐花銀象嵌を施す。踏込み後方に2種の舌を突出する。鍔鉏（みづを）は黒革紐製。三折りとして上部に白鹿革を貫いて留め、黒漆塗鉄製鉏具をもつて力革に繋ぐ。

東德三年
最德三年
正月
一日神天晴主上奉拜天施四方及山彼山此
列著采帶系而白殿順之大外記定後擇
數位勳大夫官中書而依仰持奏之云
已判臣等所大侍夜中備言奏自有神
云所奏神成之奉大儀給中書大新之內
言二位中書在奏門給在大新字相中侍
會有所禮云云吹奏奏賜將院給在
右在出給奏會大儀中納言奏事
給可計後神孔如例次之奉余月給爾
觀神于何自到之大殿之立列給神聖殿之
白殿之頭并後奏事動下後散八人位
御裝束如例但依御袍之奏事給而高殿
所座女侍給應付也給忘卷座御座
給名拜身拜畢諸卿下退
御會也給御目給內侍中書大儀
在給少納言殿後給御目給中書大儀
二日比天晴早食而不利大儀將與後
馬二之

時 範 記 (卷首)

丁未日城京中三上日新子藏系給之相月
廿九日江京中三上日春香仁之合所力石少丹
三月
一日神日明幣之供清和力使之奏給母
信信宮進本之九等五座賜載
二日比天晴主上奉拜天施四方及山彼山此
列著采帶系而白殿順之大外記定後擇
數位勳大夫官中書而依仰持奏之云
已判臣等所大侍夜中備言奏自有神
云所奏神成之奉大儀給中書大新之內
言二位中書在奏門給在大新字相中侍
會有所禮云云吹奏奏賜將院給在
右在出給奏會大儀中納言奏事
給可計後神孔如例次之奉余月給爾
觀神于何自到之大殿之立列給神聖殿之
白殿之頭并後奏事動下後散八人位
御裝束如例但依御袍之奏事給而高殿
所座女侍給應付也給忘卷座御座
給名拜身拜畢諸卿下退
御會也給御目給內侍中書大儀
在給少納言殿後給御目給中書大儀
二日比天晴早食而不利大儀將與後
馬二之

時 範 記